

# 中学1年生を対象としたがん教育の実施と 生徒の意識調査

神戸薬科大学  
薬学臨床教育センター  
浅田聖士

# 目的

- がん教育とは、「がんについての正しい理解と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることで、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育」と定義されている。
- 平成29年度から全ての小学校、中学校、高等学校で実施されることとなっており、学習指導要領にも明記されている。そこで、神戸薬科大学と神戸大学附属中等教育学校が連携してがん教育のプログラムを作成・実施し、生徒の意識変化を調査した。

# 授業内容

対象：神戸大学附属中等教育学校中学1年生120名

	1日目	2日目	3日目
テーマ	がんの正しい知識	健康って何？	いのちの授業
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 講義(40分) 「がんの正しい知識」<ul style="list-style-type: none"><li>・がんについて(種類、発生メカニズム、がんになる確率)</li><li>・がんの治療方法</li><li>・がんと向き合う</li><li>・がんを防ぐために</li></ul></li><li>◆ 振り返りシートの記入(10分)</li><li>◆ SGD(25分) 「がんになるとどうなるの？」</li><li>◆ 発表(15分)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ SGD(20分) 「今思う健康とは何か」</li><li>◆ 若年性がん体験者の講演(40分)</li><li>◆ SGD(20分) 「講演を聴いて、今思う健康とは」</li><li>◆ 発表(15分)</li><li>◆ 振り返りシートの記入(ホームワーク)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 朗読(15分) 「葉っぱのフレディ」</li><li>◆ いのちの授業(30分)</li><li>◆ 振り返りシートの記入(10分)</li><li>◆ SGD(30分) 「いのちの授業を受けてみて」</li><li>◆ 発表(10分)</li></ul>

# 1日目

## がんの正しい知識

### ◆講義(40分)

#### 「がんの正しい知識」

- ・がんについて(種類、発生メカニズム、がんになる確率)
- ・がんの治療方法
- ・がんと向き合う
- ・がんを防ぐために

### ◆振り返りシートの記入(10分)

### ◆SGD(スモールグループディスカッション) (25分)

「がんになるとどうなるの?」

### ◆発表(15分)

# 1日目「がんの正しい知識の講義」



■「がんの正しい知識」の講義 河内 正二 先生  
(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

- ・がんについて(種類・発生メカニズム・がんになる確率)
- ・がんの治療方法
- ・がんと向き合うこと
- ・がんを防ぐためにできること

## 2日目

### 健康って何？

- ◆SGD(20分) 「今思う健康とは何か」
- ◆若年性がん体験者の講演(40分)
- ◆SGD(20分) 「講演を聴いて、今思う健康とは何か」
- ◆発表(15分)
- ◆振り返りシートの記入(ホームワーク)

# 2日目「若年性がん体験者の講演」



## ■若年性がん体験者の講演

- ・がんの告知（精巣に腫瘍が見つかった時の状況）
- ・がん治療の経験（抗がん剤の副作用）
- ・がんになって気付いたこと（安易な慰めの言葉は患者の気持ちを傷付ける）
- ・友人や家族など周りにいる人の大切さについて  
(そばにいてくれた友人の有り難さ)

# 3日目

## いのちの授業

- ◆朗読(15分) 「葉っぱのフレディ」
- ◆いのちの授業(30分)
- ◆振り返りシートの記入(10分)
- ◆SGD(30分) 「いのちの授業を受けてみて」
- ◆発表(10分)

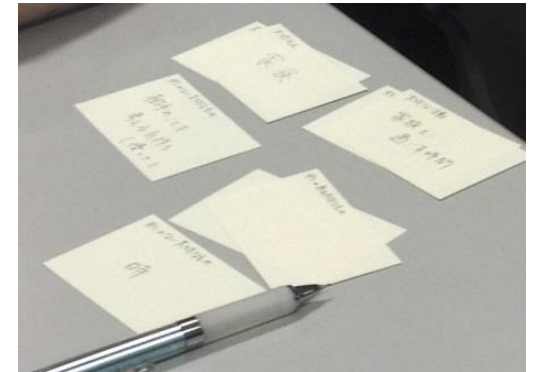


# 3日目「朗読・いのちの授業」



授業を始めるに当たり、本学の学生が、「葉っぱのフレディ」の朗読を行った。

朗読を通して、いのちについて静思した。



■「いのちの授業」 横山 郁子 先生  
(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

いのちの授業・・・

大切なものを8枚のカードに1つずつ記入。  
その後、自分ががんになり、がんが進行して  
いく中で、大切なものを1枚ずつ手放していく、  
死の体験旅行をモチーフにした授業。

本当に大切なものは何かを考えると共に、それらが今、自分の手の中にあることへの感謝の大切さを伝えた。



# 授業内容

対象: 神戸大学附属中等教育学校中学1年生120名

	1日目	2日目	3日目
テーマ	がんの正しい知識	健康って何？	いのちの授業
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 講義(40分) 「がんの正しい知識」<ul style="list-style-type: none"><li>・がんについて(種類、発生メカニズム、がんになる確率)</li><li>・がんの治療方法</li><li>・がんと向き合う</li><li>・がんを防ぐために</li></ul></li><li>◆ 振り返りシートの記入(10分)</li><li>◆ SGD(25分) 「がんになるとどうなるの?」</li><li>◆ 発表(15分)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ SGD(20分) 「今思う健康とは何か」</li><li>◆ 若年性がん体験者の講演(40分)</li><li>◆ SGD(20分) 「講演を聴いて、今思う健康とは」</li><li>◆ 発表(15分)</li><li>◆ 振り返りシートの記入(ホームワーク)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 朗読(15分) 「葉っぱのフレディ」</li><li>◆ いのちの授業(30分)</li><li>◆ 振り返りシートの記入(10分)</li><li>◆ SGD(30分) 「いのちの授業を受けてみて」</li><li>◆ 発表(10分)</li></ul>

今回の授業の教育効果を測るために、プログラムの実施前と実施後にアンケートを取り、自己成長・意識変化を調査した。

# 結果

## 表1 がんに対する知識の変化

上段: 授業前  
下段: 授業後

(n=113)

	はい	いいえ	わからない
がんは身近な病気である	71% 96%	14% 1%	15% 4%
全てのがんは1つの病気として考えることができる	54% 47%	32% 43%	14% 10%
がんの治療の目的は完治(完全に治る)することである	31% 7%	35% 80%	33% 11%
がんは移る(感染する)病気である	11% 6%	63% 88%	27% 4%
がんはすぐに死に至る病気である	10% 2%	72% 94%	19% 4%
緩和ケアという言葉を知っている	25% 90%	58% 6%	18% 4%
がんは食事や運動など生活習慣が関係する	86% 92%	0% 2%	14% 6%
喫煙とがんの発病には関係ない	4% 0%	88% 96%	8% 4%
がんは特定の人が発症する病気である	2% 0%	71% 95%	27% 5%
将来、がん検診を積極的に受けようと思う	68% 93%	2% 1%	30% 6%

オレンジの枠で示している項目では、正しく回答した生徒の割合が授業後に大幅に増加した。

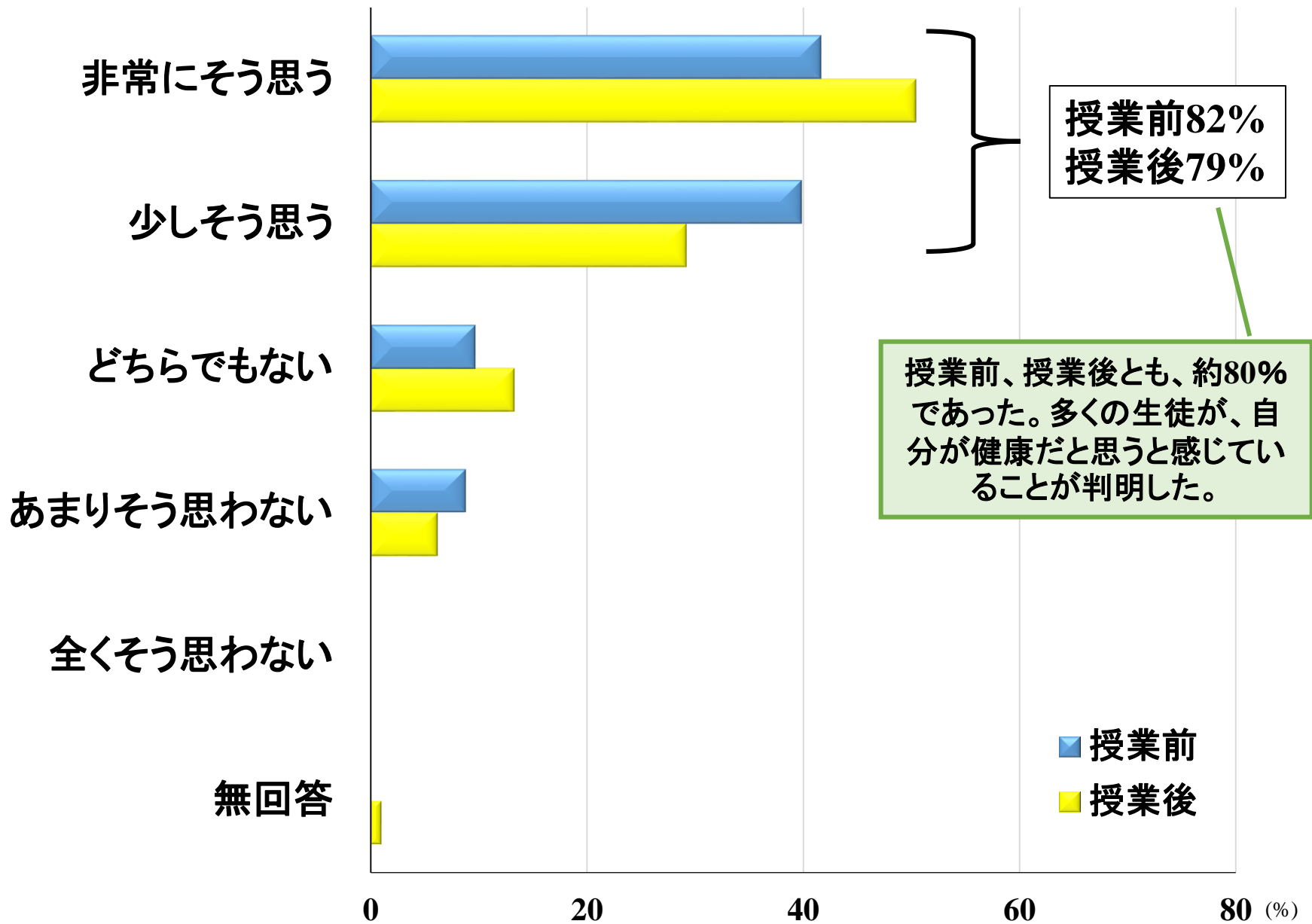
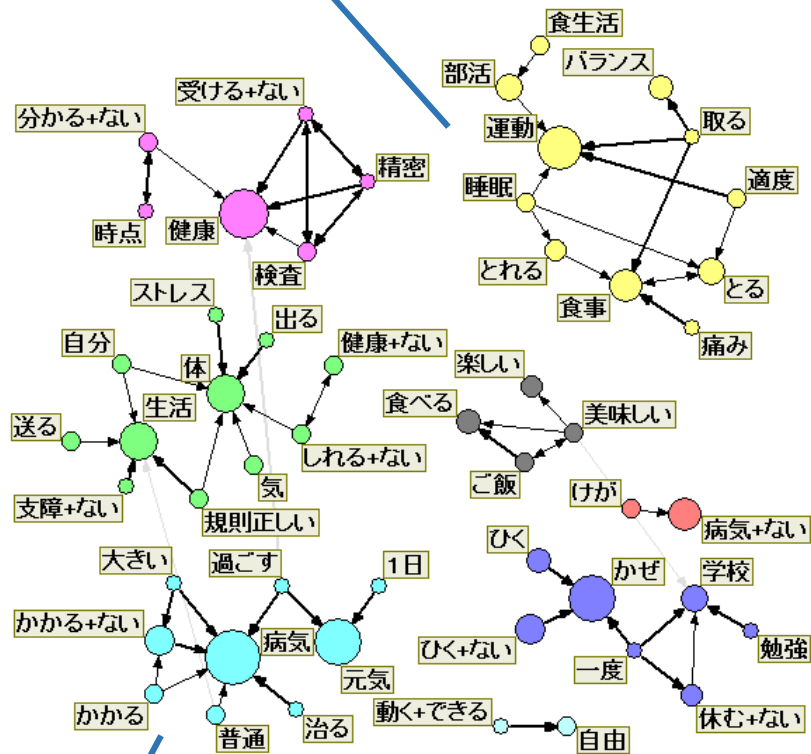


図1 「あなたは、今、健康だと思えますか？」  
に対する意識変化

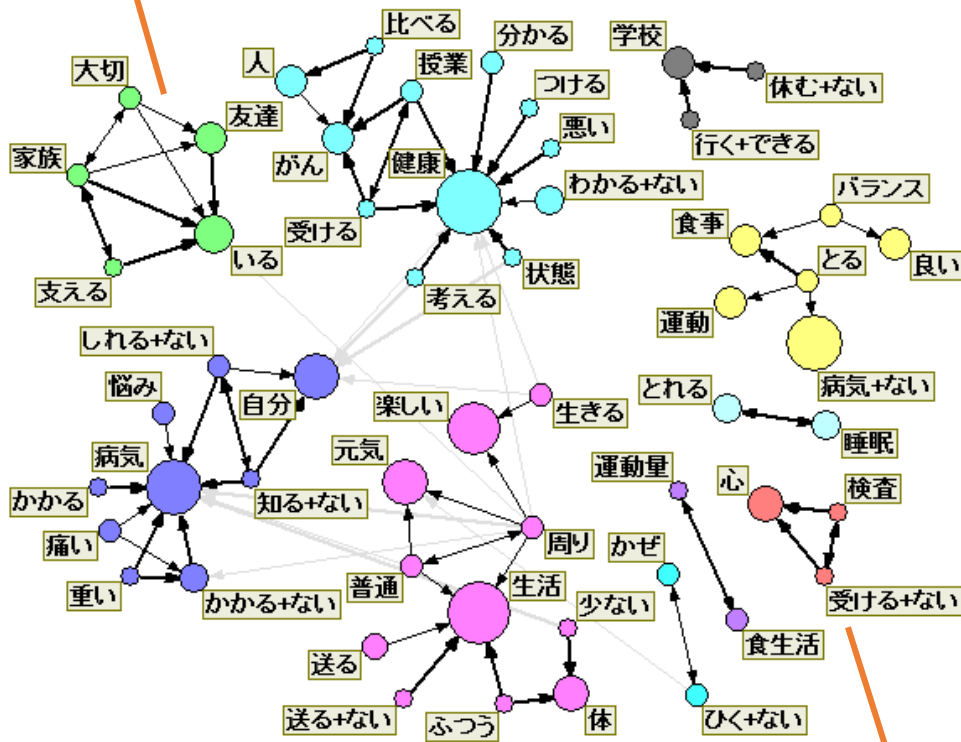
適度な運動や睡眠をとり、食事もとることができるから健康だ。



大きい病気にかからず、病気をしてもしすぐに治るから健康だ。

授業前

周りに友達や家族がいて、支えてくれているから健康だ。



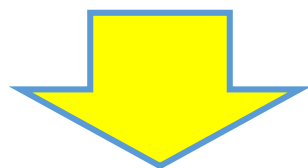
体の面は検査を受けていないからわからないが、心の面では健康だ。

授業後

図2 生徒の健康に関する自由記述のことばネットワーク分析

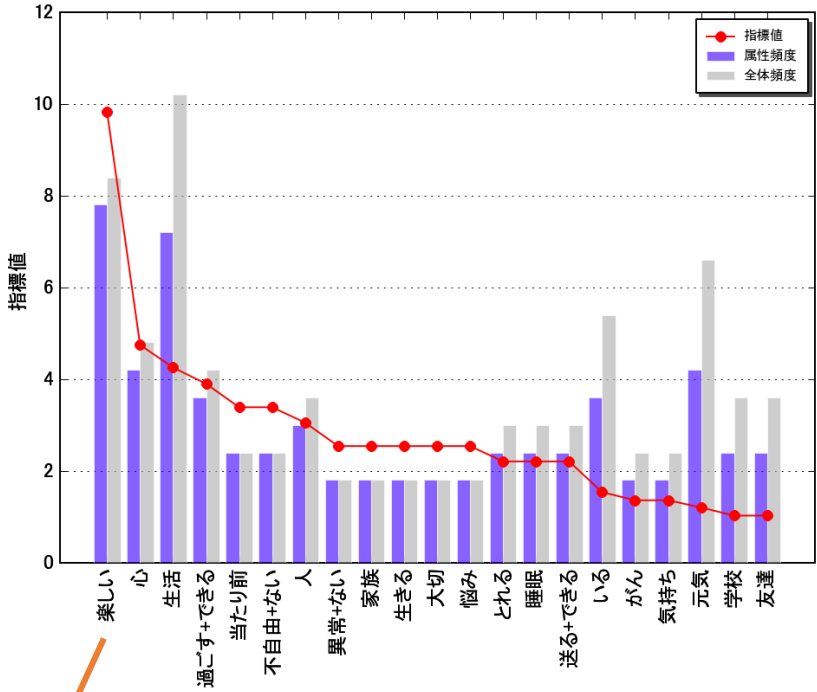
図1の「あなたは、今、健康だと思いますか？」に対する意識変化では、「非常にそう思う」「少しそう思う」と回答した生徒の割合を合わせると約80%となり、多くの生徒が、自分が健康だと感じていることが判明した。

また、図2の生徒の健康に関する自由記述では、授業前は、表面的な部分から健康について判断していたのに対し、授業後は、心の面や周囲の方の支えも健康の要因であると考えられるようになったことが判明した。



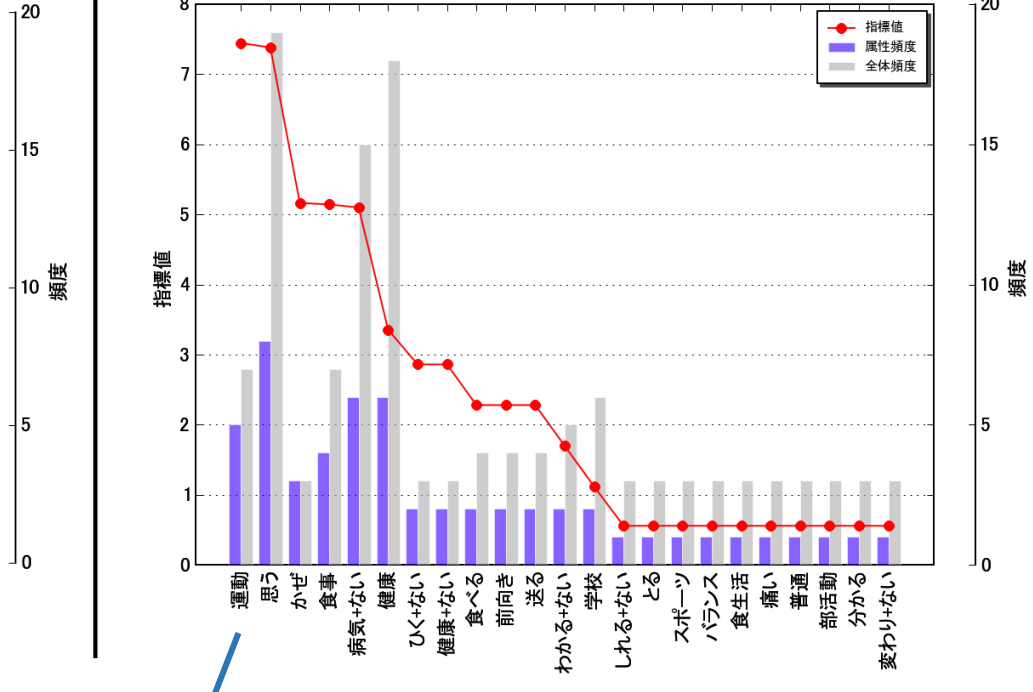
そこで、図2に示した**授業後**の健康に関する自由記述について、図1の「非常にそう思う」、「少しそう思う」を属性として特徴語抽出を行った。

「非常にそう思う」「少しそう思う」を回答した生徒の間に、健康に対する捉え方に違いがあることが判明した。



「楽しい」「心」といった言語の指標値が高い

非常にそう思う



「運動」「食事」「病気+ない」といった言語の指標値が高い

少しそう思う

図3 「非常にそう思う」、「少しそう思う」の属性に対する健康に関する自由記述の特徴語抽出

多くの生徒が死は怖い、悲しいと思っていることがわかった。

怖い  
悲しい

無になる

死んでも生き返る

何十年も先の事

考えたことがない

あまり考えたくない

よくわからない

死は平等にやってくる

生まれ変わる

死ぬことは終わりではない

過去を振り返る機会

これからの生き方について考える

自分を見つめ直す機会

今あるものの大切さに気付く

感謝の気持ちが生まれる

■ 授業前  
■ 授業後

緑で囲んだ項目では、授業後に回答した生徒の割合が大幅に増加した。

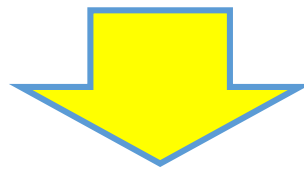
0 20 40 60 80 (%)

図4 死についての意識変化



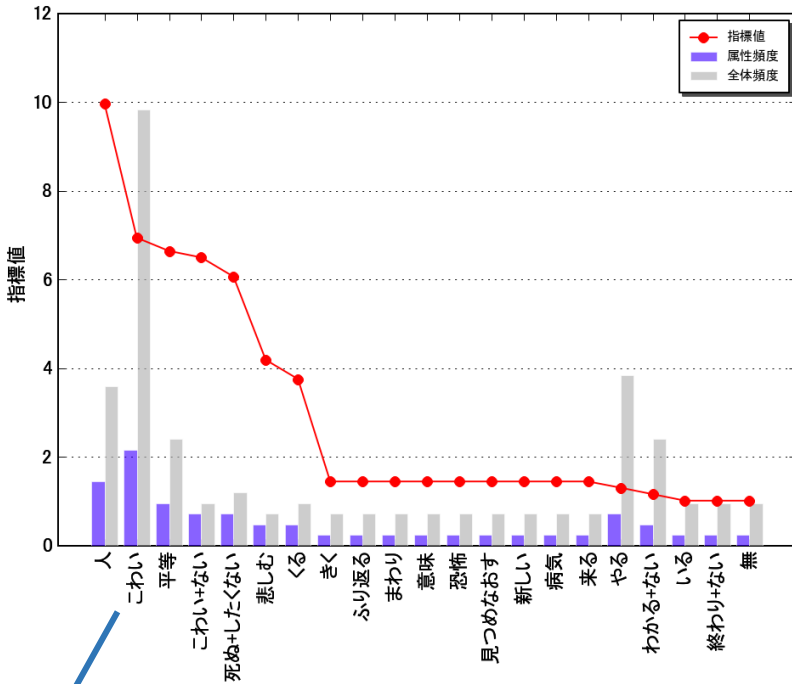
図4に示す通り、死についての意識変化では、多くの生徒が死は怖い、悲しいと思っていることが判明した。

しかし、「今あるものの大切さに気付く」「感謝の気持ちが生まれる」などの項目では、授業後に大幅に増加した。



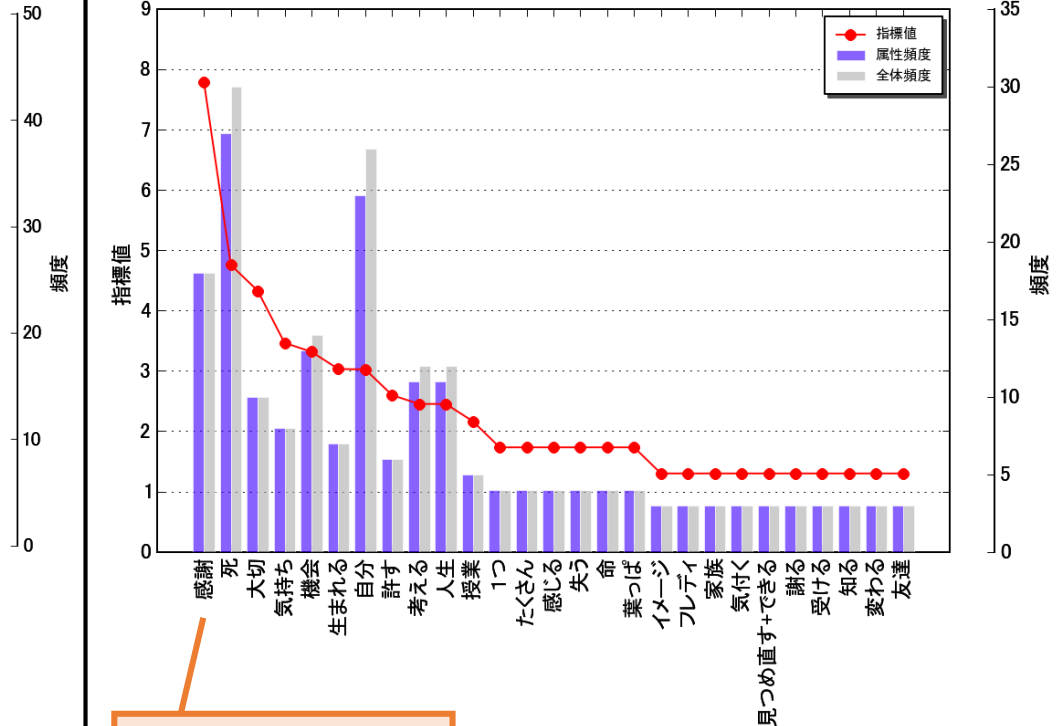
そこで、「感謝の気持ちが生まれる」の項目を選択した生徒、選択しなかった生徒を属性として、「死について、どんな風に思いますか？」の自由記述を用いて、特徴後抽出を行った。

「感謝の気持ちが生まれる」を選択した生徒は、死に対するイメージ(死生観)の中に「感謝」「大切」「機会」など、死について内省する言語が出現した。



「こわい」「死ぬ+したくない」といった言語の指標値が高い

「感謝の気持ちが生まれる」の選択なし



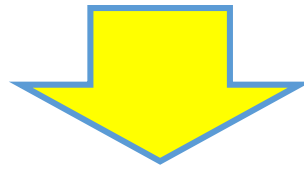
「感謝」「大切」「機会」といった言語の指標値が高い

「感謝の気持ちが生まれる」の選択あり

図5 「感謝の気持ちが生まれる」の項目について、選択の有無に対する死についての自由記述の特徴語抽出

# 考察

- がんに対する正しい知識を身につけることができた。
- 「健康とは何か」に対する視野が広がった。
- 死やいのちについて内省する機会になった。



今回行なったがん教育により、がんの知識のみならず、感性や人間性を磨くことにつながり、共に生きる社会づくりに寄与する第一歩となったと考えられる。